

析」

岡村寛之 (広島大学)

現在のインターネット社会において脅威となっているコンピュータウィルスの拡散過程について、ウィルス警告の Kill Signal 配信を考慮したマルコフ連鎖モデルが提案された。次にウィルス拡散の定量評価のための評価尺度およびその計算方法が紹介され、数値例を基に評価尺度に対するウィルスの感染率、除去率、および Kill Signal の影響について説明が行われた。

(2)「Modified Service Models について」

高橋敬隆 (早稲田大学)

全稼働期間を開始する客のサービス時間が、同じ全稼働期間内に到着する他の客のサービス時間と異なる変形サービスモデルについて紹介がなされた。次に GI/GI/1 で変形サービスモデルを定式化した場合の拡散近似による解析法が説明され、導出された平均待ち時間の近似式が過去に導出された結果と一致していることが示された。

● 不確実環境下での意思決定法 ●

・第1回

日 時：10月20日(月) 18:00~20:10

出席者：5名

場 所：日本科学技術連盟会議室

テーマと講師：

「停止型セミマルコフ決定過程について」(On Stopped Semi-Markov Decision Processes)

堀口正之 (東京電機大学情報環境学部嘱託助手)

本報告では、停止セミマルコフ過程について、モデルの構成要素とその動的モデルについて解説を行い、先行する研究成果を用いて最適な定常政策および定常停止時刻の組の存在を明らかにした。そして、標本空間の拡張と停止時刻についての混合化の構造および占有測度の構成方法を紹介し、セミマルコフ決定過程での問題をマルコフ決定過程での問題へと同値変形を行い、さらにそのモデルから構成される数理計画問題へと同値変形をする手法について解説を行った。また、簡単な数値例を示した。

査読者へのお礼

今年度の OR 誌の論文・研究レポート、論文・事例研究の査読を次の方々をお願いいたしました。

ご協力いただきましてありがとうございます。この場を借りて厚くお礼を申し上げます。

(機関誌編集委員会)

朝日弓未, 穴太克則, 阿部 誠, 荒木長照, 池上敦子, 石垣智徳, 上田 徹, 上野信行, 宇野毅明, 大

西匡光, 大屋隆生, 大山達雄, 岡太彬訓, 小澤正典, 葛山康典, 久保幹雄, 古林 隆, 権藤 元, 里村卓也, 篠原正明, 清水 剛, 関 庸一, 高倉 満, 高橋磐郎, 田口 東, 田辺隆人, 寺野隆雄, 時永祥三, 徳山博子, 豊田秀樹, 中川慶一郎, 中川義之, 中村博, 生田目崇, 成松克己, 西岡靖之, 羽室行信, 降旗徹馬, 守口 剛, 森戸 晋, 若山邦紘 (敬称略)